

小狐丸

こぎつねまる こ か じ
小狐丸は能の「小鍛治」という話に登場する刀で、同名のものがいくつも存在する刀です。そのうちの 1 つが摂関家の藤原氏に伝来したもので、松平 しゅんがく 春 よしなが 嶽 (慶永) の著作「真雪 みゆき 草紙 そうし」や福井藩の歴史書「家譜 かふ」にもその名が登場しています。藤原氏伝来の小狐丸はいつの頃からか紛失してしまい、江戸時代に福井で小狐丸と思われる刀剣が発見されました。そして、明治時代になり、春嶽の仲介で福井から九条家 (藤原氏の嫡流) くじょう へ戻りました。今回は明治時代に九条家へ戻った小狐丸に関する資料を展示します。